

## ごあいさつ

いつも阪神電車をご利用いただき、誠にありがとうございます。

去る5月8日に新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類へと移行されるとともに、「鉄軌道事業における新型コロナウイルス感染症対策に関するガイドライン」が廃止されたことを受け、当社の感染拡大防止の取組みを終了いたしました。これまで3年以上の長きにわたり、当社の取組みに対するお客さまのご理解とご協力により、安定した輸送サービスの提供を継続できましたことを深く感謝申し上げます。当社線においては通勤・通学、そして行楽を目的としたお客さまのご利用がコロナ禍前の状況に戻りつつあると感じています。これからも「みなさまの足」として安全・快適な列車運行を継続できるよう、一層気を引き締めてまいります。



阪神電気鉄道株式会社  
代表取締役・社長

**久須 勇介**

さて、当社は、その経営理念に「安心・快適」そして「夢・感動」を掲げており、常にお客さまの安心の最も重要な基盤である安全を最優先とした鉄道事業の運営に重きを置いてまいりました。そして、2022年度も引き続き「責任事故ゼロの継続」を安全目標に掲げ、次のとおり、ハード・ソフト両面にわたり安全性の向上に取り組みました。

まず、現在整備を進めているホームドアについては、大阪梅田駅での駅改良工事の中で1～3番線に設置を完了しました。引き続き、残る4番線の設置を進めてまいります。このほか、踏切支障ATSの導入を完了するとともに、淀川橋梁の改築、高架橋の耐震補強、車両の新造・改良などを着実に進め、運転保安度の向上に努めました。なお、2023年度からは「鉄道駅バリアフリー料金制度」を活用し、お客さまのご理解とご負担をいただきながら、ホームドア整備をはじめとするバリアフリー施設の整備を推進しております。

また、2022年度は安全重点施策を『ヒューマンエラーに起因する「事故の芽」事象の削減』、『自然災害及び鉄道テロ発生時等の異常時における対応力の強化』、『知識と技能の着実な継承』の3項目とし、これらを中心に具体的な行動計画を定めて種々取り組みました。特に、鉄道テロ発生時等の異常時における対応として、列車内での粗暴行為を想定した訓練を積極的に実施しました。

上記の安全重点施策は鉄道輸送の安全を確保する上で欠かすことのできないテーマであることから、2023年度もこれら3点に取り組むこととし、更なる安全を大切にする風土の醸成に努めてまいります。

このような取組みを通じて、引き続き、「責任事故ゼロの継続」を安全目標とし、お客さまに安心してご利用いただけるよう全役員・社員が一丸となって輸送の安全確保に注力してまいります。

本報告書は、鉄道事業法第19条の4の定めに基づき、当社の安全確保に関する取組みや鉄道の適切なご利用について皆さまにご理解いただくために公表するものです。ぜひ本報告書をご一読いただき、ご意見やご感想をお聞かせくださいますようお願いいたします。

2023年7月